

AI時代の弁護士の業務・役割について、AIJA東京大会と一緒に考えてみませんか

第二東京弁護士会会員

伊藤 多嘉彦

Itoh, Takahiko

1 AI時代の到来はすぐそこに

ここ数年、人工知能（AI）という言葉を新聞や雑誌、インターネット等でよく耳にするようになったが、AIと聞いて何を思い浮かべるだろうか。2016年プロ棋士に完勝したGoogle DeepMindのアルファ碁だろうか、それともAIによって奪われる仕事のリストだろうか。

株式会社野村総合研究所が、2015年に、英国オックスフォード大学のマイケル A. オズボーン准教授らとの共同研究により、日本国内601種類の職業について、それぞれAIやロボット等で代替される確率を試算した結果、10～20年後には、日本の労働人口の約49%が就いている職業がAIやロボット等に代替されるとの推計結果が出たという。

同時に発表されたAIやロボット等による代替可能性が高い100種の職業の中には、弁護士は含まれていないようであるが、外国の職業を対象とした同様の先行研究では、パラリーガルが代替可能性の高い職業に挙げられており、弁護士業界もAIの発達の影響を受けることは避けられそうにない。

国際訴訟のeディスカバリーや国際カルテルの独禁法違反調査等では、大分前から専門ベンダーを利用するのが当然の実務となっており、これらのベンダーが書類の発見や絞込みのために、こぞってAIを導入するようになっている。

そればかりではない。海外では、米国Ross Intelligence社が、IBM社の最新型コンピュータ・システムであるワトソンをベースにAI弁護士ROSSを開発し、2016年、そのROSSが大手法律事務所に「就職」したことが話題になった。ROSSを採用した法律事務所は、その後本稿執筆時現在で10事務所程度にまで増えているようだ。AI弁護士といっても、現時点では、全ての業務を行えるわけではもちろんないが、何千件・何万件もの判例等を機械学習（マシン・ラーニング）で収集・分析し、自然言語に

よる対話形式で、質問に答えたり、問題を絞り込んだりすることができ、これまで主にパラリーガルや若いアソシエイトが担ってきたリサーチ業務を効率化することができるという。

他方、弁護士のクライアントとなる企業でもAIの活用が進むことにより、弁護士がこれまでと違う法律問題を取り扱う場面は増えてくるだろう。

AIに仕事を奪われると考えるのか、AIを活用して新しい領域に踏み出していくのか、AI時代には弁護士としての心構えも問われそうだ。

2 AIJA東京大会のテーマはAI

ところで、AIJA（若手法曹国際協会）という団体についてご存じの方はどれくらいおられるだろうか。AIJAは、International Association of Young Lawyersのフランス語の略称で、45歳以下の若手弁護士を対象とした国際的な弁護士団体だ。本部がブリュッセルにあるので、ヨーロッパの弁護士が多い印象ではあるが、会員は約90か国の約4,000名の弁護士からなっている。世界各国で様々なイベントを開催しているが、目玉は、何と言っても毎年5～600名の若手弁護士が参加する年次大会だろう。年次大会では、コーポレートM&A、ファイナンス、知的財産法、労働法、倒産法、競争法などをテーマにした20の委員会が単独又は共催でセッションを行う。筆者は、所属事務所の同僚弁護士に誘われて、2014年のプラハ大会に初めて参加し、以後、2015年のロンドン大会、2016年のミュンヘン大会と連続して参加している。

そのAIJAの年次大会が2017年は、8月28日から9月1日までの5日間、東京の新宿ヒルトンホテルを主会場として開催される。テーマは、すばりAI。現在ほぼ固まってきたセッションをご紹介しよう。

8月29日の午前中は、AIのことを必ずしもよ

く知らない参加者向けに、「AIとは何か」を紹介するセッションを設け、AIはどこまで進歩しているのか、AIは法律業界にどのようなインパクトを与えるのかを、AIの最先端を知るパネリストの方々に語ってもらう予定である。

29日の午後からは、法律分野ごとにAIについてのセッションが行われる。例えば、調査・紛争セッションでは、AIの調査・紛争への活用について実際の導入例が紹介され、取引・輸送セッションでは、無人輸送・配送に関する規制のあり方や安全性の確保や事故が起きた場合の責任に関する法律問題が議論される。また、労働法セッションでは、AIを活用した採用活動で差別があった場合の取扱い、独禁法セッションでは、AIを活用した価格政策がカルテルになるのか等々の新しい問題も取り上げられるようである。その他にも、弁護士が日常業務において実際にAIをどう活用できるのかを紹介したり、AI時代の倫理・責任問題(死亡事故が避けられない場合に、誰の安全を優先するかなど)を議論したりするセッションもあり、また、必ずしもAIそのものではないが、最先端のFinTechについて取り上げるセッションも設けられている。

AIJAの東京大会の魅力は、上記の充実したセッションに加えて、セッション外のプログラ

ムやネットワーキングの機会も充実している点だ。短時間で参加者が自己紹介をし合うスピード・デート、特別な会場でのオープニング・セレモニーやガラ・ディナー、日本の弁護士がホストとなって自宅や飲食店で海外弁護士と交流を深めるホーム・ホスピタリティ、カンファレンスルームを脱出してオフサイトで半日を過ごすデイアウト、人権のために走る朝のチャリティ・ラン、最終日のガラ・ディナーの前のサッカー大会等々、若手弁護士が自然と交流できる仕組みが多く設けられている。

東京大会のオープニング・セレモニーは、椿山荘で開催予定であり、キーノート・スピーカーとして国際的なIT企業の法務部長の方を招き、AI時代の弁護士の役割について、未来への期待も込めてお話ししていただく予定である。

AIJAの年次大会のアジアでの開催は初めてであり、日本を含めアジア諸国の若手弁護士会員の数は、まだそれほど多くはないが、会員以外でも年次大会に参加することは可能である。少しでもご興味を持たれた方はぜひご参加いただいて、AI時代の弁護士の業務・役割について一緒に考えるとともに、海外から日本に来るごことを楽しみにしている多くの若手弁護士とも交流を深めていただきたい。

●AIJA東京大会(開催概要)

- ・日時：8月28日から9月1日まで
- ・会場：ヒルトン東京(主会場)
- ・大会ウェブサイト：<http://tokyo.aija.org/>（申込方法・費用等はこちらをご参照下さい。）



INTERNATIONAL ASSOCIATION OF YOUNG LAWYERS

tokyo
55TH INTERNATIONAL
YOUNG LAWYERS'
CONGRESS
28 AUGUST*1 SEPTEMBER 2017
by AIJA